

手足の不自由な子どもたち

はけみ

特集 **さまざまな働き方3**

～生活介護事業所でのおしごとや
介護支援を受けながらの就労～

令和8年度 / No.430

10/11

Oct. — Nov.



第44回（令和7年度）肢体不自由児・者の美術展入賞作品「Go Go 宇宙へ」
三浦 雪乃



社会福祉法人 日本肢体不自由児協会

はげみ

令和8年度／No.430

10/11

Oct. - Nov.

特集

さまざまな働き方 3

～生活介護事業所でのおしごとや介護支援を受けながらの就労～

目次 Contents

広場	さまざまな働き方 …… 津田 貴 … 2
	～どこでも「テレワーク」、だれでも「おしごと」～

生活介護での活動事例

Sec.1	重い障害があっても、ICT で学び、活躍する …… 久保 潤一郎 … 4
	～生活介護での生涯学習モデル「あいのきせき」～
Sec.2	「国産大豆の手づくり豆腐」による障害のある人の仕事おこし …… 小野 浩 … 10
Sec.3	重症心身障害者が働くということ …… 藤井 美和 … 16
	～「仕事」から広がる「関係づくり」～

在宅雇用事例

Sec.4	重度障がい者の「働く」を支える在宅雇用と次世代育成支援 …… 浅井 千春 … 22
Sec.5	生活介護事業所でテレワークで働く事例 …… 和田 直哉 … 28
Sec.6	病室からつながる社会 …… 山田 京花 … 31
Sec.7	ヘルパーと二人三脚で生活を組み立てる責任と幸せ …… W ・ A … 34
Sec.8	グループホーム生活で実現する仕事と趣味の充実 …… 田中 俊吾 … 37

在宅就労支援事例

Sec.9	「通勤」だけが「働く」ことではない …… 水野 聰 … 40
	～在宅で、短時間から、働きながら学ぶ「TSUNAGU Academy」の挑戦～
Sec.10	ICT 活用が可能になり就労に向けた学習をする事例 …… 緒方 隆良 … 46
Sec.11	北海道岩見沢高等養護学校の進路支援と 身体的な支援が多い生徒の進路の現状 …… 菊地 一美 … 49
Sec.12	一緒にeスポーツをやってみませんか？ …… 園田 大輔 … 52
	～ゲームがつなぐ、新しい出会いと未来～

今号の表紙	三浦 雪乃 … 58
-------	------------

広場

さまざまな働き方

くどいでも「テレワーク」、だれでも「おしごと」く

どこだれ 代表
はげみ編集委員

津田 貴

人は誰でも「社会参加したい」「人の役に立ちたい」「自己実現したい」と願い、働いて生きがいを感じたいと思っています。しかし、重度肢体不自由の方には「通勤が困難」や「就労訓練の機会が少ない」など多くの制約があります。それらの壁を乗り越える事例を共有するために「さまざまな働き方」の特集が始まり、今号で3回目になります。進化する好事例や新たな取り組みも見られますのでどんどん紹介していきたいと思っています。

■生活介護事業所での「おしごと」

生活介護事業所は一般的には就労の場ではありませんが、工賃を得る活動はもちろん、事業所で何らかの役割として「おしごと」をすることがあります。日本肢体不自由児協会を創設した高木憲次博士は、医療、教育、職能を三つの柱として療育という言葉を提唱しました。療育の柱の一つである「職能」を現代で言うところの「社会参加」と広く捉え、このような生活介護事業所での「おしごと」も「さまざまな働き方」

特集で取り上げることとしました。

前回の「さまざまな働き方2」特集では、生活介護事業所で利用者の方が、ICTを活用して主体的な活動をしたり仲間の役に立つ取り組みを紹介しました。このときは文部科学省の生涯学習事業における事例でしたが、令和7年度は厚生労働省でも生活介護事業所における生涯学習事業が実施されましたので、引き続き取り上げたいと思います。また今回の特集では、質の高い商品作りをして比較的高い収入を得ている生活介護事業所の事例も紹介してもらいます。

■特別支援学校時代に社会に触れる重要性

重度の肢体不自由児は移動が困難だったり介護があったりで、「社会に触れる機会が少なくなりがちなのでどんな職業があるのか情報が少ない、また社会性を身に付ける機会が少ない」というケースが多いと思います。このように社会経験が少ないと、特別支援学校卒業後の進路の選択肢がどうしても限定されがちです。

全国の特別支援学校の生徒を対象に、「世の中にはこんな職業がある」というオンラインの社会見学を提供したり、「通勤が困難でもICTを身に付ければ、在宅就労という働き方がある」という出前授業をおこなう企業があります。そして生活介護事業所に通所する方や重度訪問介護を利用している方のテレワークによる雇用にもつなげています。就労が困難だった方たちの可能性を広げている先進企業にそれらの取り組み事例を紹介してもらいます。

■働きたい気持ちで壁を乗り越える

以前は通勤が困難な方や日常的な介護が必要な方にとって、就労は多くの制約がありました。ICTの進歩によって、自宅で身体への負担のない環境でテレワークする「在宅就労」という働き方が登場しました。たしかに重度肢体不自由の方が一般就労や福祉就労で働く事例は増えてきましたが、生活介護や重度訪問介護など障害福祉サービスの利用中は原則就労が認められないなど、環境によってはまだまだ多くのハードルが存在しています。本人は働きたい気持ち一杯なのに何らかの壁にぶつかっている多くの当事者、家族、教員の方たちがいます。

新たな助成金制度が作られたり、努力で壁を乗り越えたり、選択肢や可能性が少しずつ広がって就労に結びついた事例を紹介してもらいます。同じような悩みを持っている方々との情報交換の場になれば幸いです。

■自分のペースでICT学習ができる環境作り

体力や介護の関係で、特別支援学校の12年間では学習や社会勉強、あるいはICTの習得に時間が足りないという方は多いと思います。そして卒業後も「働きたいが就労のためのスキルを身に付けるには、通常よりもゆとりした進度で長い期間が必要なので、就労までなかなかたどり着けない」「せっかくスキルが身に付いても、短時間しか働けないので採用する企業がほとんどない」という課題に悩む方がいます。例えば就労系障害福祉サービスの就労移行支援の利用に原則最大2年間という制約があるのは要因の一つでしょう。そもそも在宅利用が認められないケースも少なくありません。

企業が期待する業務が可能になるまで、完全在宅でじっくりビジネスマナーやITスキル研修を受けられる新しい取り組みがありますので紹介してもらいます。

生活介護利用者の方の主体的な活動を通じて、だれでも「おしごと」に取り組めます。また近年、通勤困難な方が自宅で在宅就労することが可能になっただけでなく、安心して生活できる場である病棟やグループホームなど、どこでもテレワークで就労する事例も見られるようになりました。この特集が、1人1人に合った働き方を見つける手がかりになれば幸いです。